

## 会議概要

名 称	令和7年度第1期第3回新潟市公民館運営審議会	
日 時	令和7年11月27日（木）午前10時から正午	
場 所	クロスパルにいがた303講座室	
出席者 (敬称略)	委 員	相澤 雅子、石田 晶子、井上 経久、倉嶋 和見、佐藤 敦子、 登石 互、藤瀬 竜子、渡邊 正友、渡辺 恵 (欠席：1 阿部 正機)
	アドバイザー	生涯学習推進課 高橋 宏昌
	事務局	中央公民館長、中央公民館職員、各区基幹公民館長、 北地区、石山地区、東地区公民館長
傍 聴	なし	
報 道	なし	
概 要	<p>1 開会</p> <p>2 中央公民館長あいさつ</p> <p>3 議長あいさつ</p> <p>4 報告・議題</p> <p>(1) 新潟市公民館の地域連携事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各区における地域連携事業の取り組みについて</li> <li>● 事務局より説明</li> <li>● 審議委員の意見・質問</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各区の取り組み内容、成果、課題、活動協力員の意見、今後の活動に向けて、わかりやすく整理されている。</li> <li>・ 高齢化と次世代の継承が課題に上がっている。年代別データや仲間づくりの重要性を指摘し、次世代への支援方法に対する議論が必要だ。</li> <li>・ 多様な公民館事業を称賛し、参加方法や協力方法が地域で重要な課題である。また、文部科学省の「公民館海援隊」の活動状況について問い合わせがあった。（「公民館海援隊」については文部科学省のHPに掲載している。）</li> <li>・ 高齢者や孤立を防ぐための公民館と福祉の連携強化が必要とし、公民館が地域とのつながりの場となってほしい。</li> <li>・ ボランティア募集の方法に関する工夫を提案。チラシを使い、気軽に参加できる呼びかけが重要である。</li> <li>・ 岩公まつりが学・社・民の融合の好事例であり学校・地域・団体・企業の交流が図られている。公民館での活動にボランティア団体との連携を強化することで、活動の次のステップへつながる。</li> <li>・ 公民館が地域の歴史や文化の拠点となり、地域の知識を記録・保存する場としての役割を期待する。また、地域の人々との連携が重要である。</li> </ul>	

## 会議概要

- 自分の体験を紹介して、地域に出向いて活動するボランティアがいる。多様な活動を支援する場所として公民館が重要な役割を担っている。
- 地域コミュニティ協議会と公民館が連携して、まちづくりを推進してほしい。また、公民館職員は、地域に足を運び、地域貢献を意識した活動が重要である。
- 地域活動は時間がかかるものの、継続的な支援からボランティアの循環が生まれる。すぐに効果がなくても子どもから大人まで循環できる公民館になって欲しい。

### (2) その他

- 伝統芸能「角兵衛獅子」の後継者育成のため、囃子方体験会を実施予定である。篠笛や太鼓の経験者を募り、継続的な活動ができる後継者の育成が目標である。

### (3) 閉会